

## 第8章 事後調査の実施に関する事項



## 第8章 事後調査の実施に関する事項

### 8.1 事後調査の考え方

事後調査とは、環境影響が予測されるとして調査・予測・評価を行った環境影響項目に対して、予測・評価の不確実性を補い、環境の保全のための措置の適正な履行状況等を確認することを目的とし、対象事業実施区域及びその周辺の環境調査、工事または施設の状況調査等を実施するものです。

事後調査は、環境影響評価において、環境保全目標は達成するものの、環境に及ぼす影響が比較的大きいと想定された環境影響評価項目、並びに予測・評価項目において、不確実性が大きいと考える環境影響評価項目等を対象として行います。

## 8.2 事後調査項目の選定

事後調査項目として選定した理由及び選定しない理由は、表 8.1 及び表 8.2 に示すとおりです。

表 8.1(1) 事後調査項目を選定した理由・選定しない理由（工事中）

環境影響評価項目		環境影響要因	選定	選定した理由・選定しない理由
評価項目	細目			
温室効果ガス	温室効果ガス	建設機械の稼働	×	工事中の温室効果ガスは、建設機械や工事用車両のアイドリングストップ徹底やエネルギー効率の高い低燃費の機種（車種）の使用等の環境保全措置によって、温室効果ガス（二酸化炭素）排出量を可能な限り抑制できると考えられることから、選定しません。
		工事用車両の走行	×	
生物多様性	動物	建設行為等	×	本事業の工事に伴う動物・植物・生態系への直接的影響はありません。また、対象事業実施区域に隣接する瀬谷市民の森等を生息・生育環境とする動物・植物・生態系への間接的な影響の程度は小さいため、選定しません。
	植物	建設行為等	×	
	生態系	建設行為等	×	
水循環	湧水の流量	建設行為等	○	和泉川の湧水は、影響予測に不確実性があると考えられるため、選定します。 なお、堀谷戸川の湧水は本事業の対象事業実施区域外に分布しており、堀谷戸川の集水域は対象事業実施区域外にも広がっていることから、本事業による堀谷戸川への影響は小さいと予測されるため、選定しません。
廃棄物・建設発生土	産業廃棄物	建設行為等	×	工事中の産業廃棄物については、産業廃棄物管理表により管理を行い適正に処理します。 建設発生土について、場内利用を行うとともに、場外へ搬出する建設発生土については、他の工事現場等の受入先での有効利用を行い、それ以外は、横浜市指定処分場で埋め立てに用いる計画です。 以上のことから、工事中の産業廃棄物及び建設発生土は、適正に管理し、処理することから、選定しません。
	建設発生土	建設行為等	×	
大気質	大気汚染	建設機械の稼働	×	本事業及び同時期の他事業の建設機械の稼働に伴う一般大気環境への影響は小さいと考えられることから、選定しません。 本事業及び同時期の他事業の工事用車両の走行に伴う沿道大気環境への影響は小さいと考えられることから、選定しません。
		工事用車両の走行	×	
水質・底質	公共用水域の水質	建設行為等	○	本事業の工事の実施に伴う公共用水域の水質の影響は、予測条件として整理した仮設調整池の諸元、植栽範囲で発生する浮遊物質質量 <sup>注1</sup> 、仮設調整池での土砂の残留率 <sup>注2</sup> 等に不確実性があると考えられるため、選定します。
騒音	騒音	建設機械の稼働	×	本事業及び同時期の他事業の建設機械の稼働に伴う騒音の影響は小さいと考えられることから、選定しません。 本事業及び同時期の他事業の工事用車両の走行に伴う道路交通騒音の影響は小さいと考えられることから、選定しません。
		工事用車両の走行	×	

注1：植生によるSSの除去効果は、植生の種類・状態、降雨条件及び土壌性状などの諸条件によって異なるため、植生によるSSの除去割合の条件には不確実性があると考えられます。

注2：植生通過後の土壌粒子は、裸地から流出される土壌粒子より小さい可能性が考えられ、その場合、仮設調整池での滞留時間経過後の土砂の除去率は、植生通過後の土壌の方が裸地から流出された土壌よりも低く（残留率が高く）なります。

表 8.1(2) 事後調査項目を選定した理由・選定しない理由（工事中）

環境影響評価項目		環境影響要因	選定	選定した理由・選定しない理由
評価項目	細目			
振動	振動	建設機械の稼働	○	本事業及び同時期の他事業の建設機械の稼働に伴う振動の影響は、環境保全目標を達成するものの、比較的高い予測値となっているため、予測結果を補完するため、選定します。
		工事用車両の走行	×	本事業及び同時期の他事業の工事用車両の走行に伴う道路交通振動の影響は小さいと考えられることから、選定しません。
地域社会	交通混雑	工事用車両の走行	×	本事業及び同時期の他事業の工事用車両の走行に伴う交通混雑の影響は小さいと考えられること、対象事業実施区域周辺の交通状況を勘案し、工事用車両の走行時間や台数の調整を行う等の環境保全措置によってさらに交通混雑の影響は低減できると考えられることから、選定しません。
	歩行者の安全	工事用車両の走行	×	工事中の歩行者の安全性は、工事用車両出入口及び仮設経路出入口に誘導員を配置する等の環境保全措置によって確保できるため、選定しません。
触れ合い活動の場	触れ合い活動の場	工事用車両の走行	×	本事業及び他事業の工事用車両の走行に伴う触れ合い活動の場への著しい影響は生じないと考えられること、工事用車両の出入口付近に、誘導員を配置する等の環境保全措置によってさらに影響を低減できると考えられることから、選定しません。

表 8.2(1) 事後調査項目を選定した理由・選定しない理由（供用時）

環境影響評価項目		環境影響要因	選定	選定した理由・選定しない理由
評価項目	細目			
温室効果ガス	温室効果ガス	施設の運営	×	供用時の温室効果ガスは、省エネルギー型製品の導入、太陽光等の再生可能エネルギー施設の導入等の環境保全措置によって、温室効果ガス（二酸化炭素）排出量を可能な限り抑制できると考えられることから、選定しません。
生物多様性	動物	施設の存在・土地利用の変化	○	施設の供用及び土地利用の変化に伴う動物・植物・生態系への影響については影響予測に不確実性があると考えられます。また、環境保全措置の内容をより詳細なものとする必要があり、緑化計画や環境全措置の実施状況を確認して、環境保全措置の実施により対象事業実施区域内の環境が適切に再生・復元されているか把握するため、選定します。 なお、施設の運営に伴う動物・植物・生態系への直接的な影響はなく、対象事業実施区域に隣接する瀬谷市民の森等を生息・生育環境とする動物・植物・生態系への間接的な影響の程度は小さいため、施設の運営については選定しません。
		施設の運営	×	
	植物	施設の存在・土地利用の変化	○	
		施設の運営	×	
	生態系	施設の存在・土地利用の変化	○	
		施設の運営	×	

表 8.2(2) 事後調査項目を選定した理由・選定しない理由（供用時）

環境影響評価項目		環境影響要因	選定	選定した理由・選定しない理由
評価項目	細目			
水循環	湧水の流量	施設の存在・土地利用の変化	○	和泉川の湧水は、影響予測に不確実性があると考えられるため、選定します。 なお、堀谷戸川の湧水は本事業の対象事業実施区域外に分布しており、堀谷戸川の集水域は対象事業実施区域外にも広がっていることから、本事業による堀谷戸川への影響は小さいと予測されるため、選定しません。
廃棄物・建設発生土	一般廃棄物	施設の運営	×	発生する廃棄物等について適正に処理するため、選定しません。
	産業廃棄物	施設の運営	×	
大気質	大気汚染	来園車両等の走行	×	本事業の来園車両等及び他事業の関係車両の走行に伴う沿道大気環境への影響は小さいと考えられることから、選定しません。
騒音	騒音	来園車両等の走行	○	本事業の来園車両等の走行に伴う道路交通騒音の影響は小さいと考えられますが、他事業を考慮した関係車両の走行に伴う道路交通騒音は、比較的高い予測値となっているため、予測結果を補完するため、選定します。
振動	振動	来園車両等の走行	○	本事業の来園車両等の走行に伴う道路交通振動の影響は小さいと考えられますが、他事業を考慮した関係車両の走行に伴う道路交通振動の影響が、比較的高いと考えられるため、予測結果を補完するため、選定します。
地域社会	交通混雑	来園車両等の走行	○	本事業の来園車両等及び他事業を考慮した関係車両の走行に伴う交通混雑への影響が、比較的高い予測値となっているため、予測結果を補完するため、選定します。
	歩行者の安全	来園車両等の走行	×	供用時の歩行者の安全性は、来園経路において歩道等が設置されており安全が確保されているため、選定しません。
景観	景観	施設の存在・土地利用の変化	○	公園施設が出現することによる周辺景観との調和の状態を確認するため、選定します。
触れ合い活動の場	触れ合い活動の場	施設の存在・土地利用の変化	×	本事業の施設の存在・土地利用の変化、本事業の来園車両等及び他事業の関係車両の走行に伴う触れ合い活動の場への著しい影響は生じないと考えられること、従業員、公園利用者に対する公共交通機関の利用促進等の環境保全措置によってさらに影響を低減できると考えられることから、選定しません。
		来園車両等の走行	×	

### 8.3 事後調査の内容

事後調査の内容は、表 8.3 及び表 8.4 に示すとおりです。

なお、事後調査の対象として選定しなかった環境影響評価項目についても、環境保全のための措置の実施状況を確認し、選定した項目の事後調査結果とあわせて報告します。

また、工事中及び供用時の事後調査の結果が環境影響評価の予測結果と大きく異なる場合、すなわち、当初予測できなかった事態が生じ、周辺に著しい影響を及ぼすことが懸念される場合には、必要に応じて関係機関の協力を得て原因の究明や対策の検討を行い、環境保全のための適切な措置を講じます。また、原因の究明や対策の検討にあたっては、必要に応じて、専門家等の意見を踏まえながら、適切に対応します。

表 8.3 事後調査の内容（工事中）

環境影響評価項目		調査項目	調査位置	調査頻度	調査時期	調査方法
評価項目	細目					
水循環	湧水の流量	湧水の流量	和泉川周辺で予測を行った地点（6地点）	4季	工事期間全体	「水質調査方法」（昭和46年9月環水管30号）に定める方法又は容器法とします。
		浮遊物質（SS）、水素イオン濃度（pH）	予測を行った地点（仮設調整池の出口4地点及び放流先河川4地点） <sup>注1</sup>	4季（各季 非降雨時及び降雨時の2回）	一次整備工事期間全体	「水質調査方法」（昭和46年環水管30号）及び「水質汚濁に係る環境基準について」（昭和46年環境庁告示第59号）に定められた方法とします。
水質・底質	公共用水域の水質	建設機械の稼働に伴う振動レベル	居住環境等に近接し、かつ影響が最大と想定される工事敷地境界の1地点	1回（平日1日）	予測時点（工事の最盛期）において、工事時間に前後1時間を加えた時間帯	「振動規制法施行規則」（昭和51年総理府令第58号）及び「振動レベル測定方法」（JIS Z 8735）に定める方法により、振動の状況を確認します。
		建設機械の稼働台数・概ねの稼働位置	対象事業実施区域内	1回（平日1日）	上記、現地調査日と同日に実施	工事資料の整理等により確認します。

注1：仮設調整池1（堀谷戸川）の排水は堀谷戸川の合流前の南側の支流に放流することから、仮設調整池1の放流先河川の事後調査位置は堀谷戸川の南側の支流の合流前の位置とします。

注2：水循環、水質・底質について、土地区画整理事業と調査地点及び調査時期が重なる場合は、土地区画整理事業の事後調査結果を活用します。

表 8.4(1) 事後調査の内容（供用時）

環境影響評価項目		調査項目	調査位置	調査頻度	調査時期	調査方法
評価項目	細目					
生物多様性	動物	施設の存在・土地利用の変化に伴う動物の状況	対象事業実施区域内	4季	全体供用開始後1年程度経過後	現地調査により、動物種・植物種の生息・生育状況を確認します。
	植物	施設の存在・土地利用の変化に伴う植物の状況				
	生態系	施設の存在・土地利用の変化に伴う生態系の状況				動物、植物の調査で確認した生息・生育状況より類推します。
水循環	湧水の流量	湧水の流量	和泉川周辺で予測を行った地点（6地点）	4季	全体供用後1年間	「水質調査方法」（昭和46年9月 環水管30号）に定める方法又は容器法とします。
騒音	騒音	来園車両等の走行に伴う道路交通騒音レベル	予測を行った地点（7地点）	2回（平日、休日）	全体供用後の適切な時期	「騒音に係る環境基準について」（平成10年9月30日環境庁告示第64号）及び「環境騒音の表示・測定方法」（JIS Z 8731）に定める方法により、騒音の状況を確認します。
		騒音の主要な発生源の状況（主要発生源の状況、自動車交通量等の状況）	予測を行った地点（7地点）	2回（平日、休日）	上記、現地調査日と同日に実施	自動車断面交通量を調査し、1時間ごとに集計します。
振動	振動	来園車両等の走行に伴う道路交通振動レベル	予測を行った地点（7地点）	2回（平日、休日）	全体供用後の適切な時期	「振動レベル測定方法」（JIS Z 8735）に定める方法により、振動の状況を確認します。
		振動の主要な発生源の状況（主要発生源の状況、自動車交通量等の状況）	予測を行った地点（7地点）	2回（平日、休日）	上記、現地調査日と同日に実施	自動車断面交通量を調査し、1時間ごとに集計します。



表 8.4 (2) 事後調査の内容 (供用時)

環境影響 評価項目		調査項目	調査位置	調査頻度	調査時期	調査方法
評価 項目	細目					
地域 社会	交通 混雑	来園車両等の 走行台数	予測を行った地 点 (9 地点)	2 回 (平日、休日)	全体供用後の適切 な時期	交差点 (地点 1~6、 8~9) では時間別・ 車種別・方向別自動 車交通量、渋滞の状 況及び信号現示を現 地調査により把握し ます。 断面 (地点 7) で は、時間別・車種別 自動車交通量を現地 調査により把握しま す。
		主要な眺望地 点からの景観 の変化	フォトモンター ジュによる予測 を行った予測地 点 (6 地点)	2 回 (着葉期、落葉期)	全体供用後の適切 な時期	予測地点と同地点で 写真撮影を行います。
景観	景観	囲繞景観の変 化	フォトモンター ジュによる予測 を行った予測地 点 (4 地点)	1 回 (着葉期)	全体供用後の適切 な時期	予測地点と同地点で 写真撮影を行います。

